

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201252
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	シーサイド
所在地	愛媛県今治市吉海町臥間46番地2
自己評価作成日	平成23年1月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護する側・される側ではなく、人としての関わりを大切にしたい。利用者も職員も常に笑顔で過ごせるようにしていきたい。地域に根付いた施設となるよう、努力していきたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

窓からは、山や海、港が一望できる。客船の出入りで、時計代わりに時間を感じられる方もおられるようだ。開設当時より行われている島四国の縁日の「お接待」を通して、巡礼者の方と利用者が顔なじみになっておられ、年に1度、再会できることを楽しみにされている。「お接待」では、法人でぜんざいを振舞われており、利用者は、ぜんざいに入れる白玉団子を職員と一緒に作っておられる。  
年2回、夏祭りやクリスマス会に合わせて「家族会」を行っておられ、食事を利用者とともに楽しんでいただきながら、ご希望をお聞きしたり、運営推進会議で話し合った内容等を報告されている。ご家族の訪問時には、必ず「何かお気づきの点はないですか」と職員が声をかけるようにされている。  
利用者は、入浴を好まれる方が多く、毎日入浴される方もおられる。時間についても、午前、午後等、希望に応じて入浴できるよう支援されている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 シーサイド

(ユニット名) げんき

記入者(管理者)

氏名 菊川 孔子

評価完了日 23年 1月 17日

### 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	(自己評価) 開設時から理念に基づき働いている。理念はフロアに掲示してい るため、職員だけでなく利用者で家族にも目につく。日々、理念に ついて振り返り職員同士話し合い理念を共有し実践できている。	
			(外部評価) 事業所では、ユニット別に理念を掲げておられる。介護度の高い 方が多い2階ユニットは「笑顔」と掲げ、利用者に「1日に1度でも笑 顔を見せていただけるような支援」に努めておられる。3階ユニット は「元気」と掲げ、利用者に「いきいきと暮らしていただくため」利用 者個々の「行きたいところ、やりたいこと」を引き出せるよう、取り組 みをすすめておられる。各ユニットの居間には、利用者にも見ても らえるよう、漢字とひらがな両方の大きい文字で理念を掲示してお られた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的 に交流している	(自己評価) 夏祭りには近所の方は学生ボランティアの参加依頼し協力を頂いている。 地方祭の時には神輿がきて地域の方との交流がある。また、日常生活にお いてのレクリエーションで毎月習字や砂絵と言った様々な教室に地域の方が 来て下さっている。また、生活用品を利用者と近くのスーパーに買い物に行 き近所の知人と会話を楽しまれている。定期的に保健所、民生委員の訪問 があり中学生の職場体験なども受け入れを行っている。	
			(外部評価) 開設時より月に1度、利用者とともに行われている札所の清掃は、 車椅子を使用している利用者も、ほうきを使って掃く等して参加され ている。地域の方からは「きれいにさせていただいてありがとうございます ！」と感謝の言葉をいただいた。11月、併設事業所と共同で 開催した「文化祭」では、民生委員の会や婦人会の方が踊り等を 披露してくださり、利用者は踊りを見学されたり、事業所の畑で収 穫したさつまいもを焼き芋にして、参加者の方に振舞われる等され た。保育園の園児と、年2～3回「世代交流」をされており、事業所 に来て利用者の肩たたきをしてくれたり、一緒にお絵かきをしながら 触れ合っておられる。公民館で行われる「地域の文化祭」には、 利用者がレクリエーションで作られた砂絵や陶芸等の作品を出品さ れており、知り合いの方が「出しとったね」と声をかけてくださること もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 向けて活かしている	(自己評価) 毎月、定期的に施設の隣にある札所に利用者と職員協力し札所 掃除をさせて頂いている。また、毎年、島四国の縁日の時にも利 用者と職員で遠方からの参拝者へお接待し島の行事を受け継が せて頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。家族、民生委員、市の担当者と言った様々な立場の方から、活発な意見を頂いている。	運営推進会議の意義や目的等も踏まえ、いろいろな方に事業所の取り組みを具体的に知ってもらったり、認知症の理解を拡げたり、事業所のケアサービスについて意見や感想を具体的にお聞きするような機会を作り、事業所のさらなるケアの質向上に活かしていかれてほしい。
			(外部評価) 民生委員、地域の総代の方等に出席していただき、併設の小規模多機能事業所と合同で会議を開催されている。会議は、市の担当者の日程の都合等も考慮して日程調整して、グループホームからは、ご家族1名等決まったメンバーで集まり開催されている。会議時、地域の総代の方より「大島が出るテレビ番組」を教えていただき、職員は利用者として、利用者の見慣れた場所等が映ると、とても喜ばれたようである。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 支所の推進会議のメンバーだけでなく市役所高齢介護課からの訪問もあり介護課からの視点でも意見を頂いている。	
			(外部評価) 市、地域包括支援センター、市社協の担当者や地域の介護事業所等が集まって、今年1月に第1回の「地域ケア会議」を開催された。今後は、定期的に会議を開催して、連携しながら地域全体の高齢者の暮らしを支えていくために「これからどのようにしていくか」を話し合われるようだ。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士日々利用者の安全について考えながら拘束しない方法で行う様に話し合い確認し合っている。また、ミーティングでも話し合い意識統一する。	
			(外部評価) 「身体拘束」「虐待」「個人情報の保護」等について、内部研修を行っておられる。ベットから転落の危険性のある方の居室には畳が1枚用意されており、夜間はベットサイドに敷くようにされている。エレベーターや階段は、職員が付き添って昇降することになっており、1階に設置されているジュースの自動販売機に、職員と一緒にジュースを買いに行く利用者もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設の研修にて定期的に勉強会を行っている。日々の申し送り、ミーティングでも職員同士話し合い意識統一できるよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度、福祉サービス利用援助事業のパンフレットを常備しており必要に応じ利用できる様にしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に家族とよく話し合い不安な事、気になること等をお聞きし、重要事項説明書などでも再度十分説明をしてご理解、納得が頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 受付には意見書を設置しており、その場で気になった意見を頂けるようにしている。また、契約時に重要事項や苦情のフリーチャートで説明し周知している。また、職員も苦情処理システムを徹底し、意見ある時は解決にむけ話し合いを行っている。家族会だけでなく日々の家族との会話でも意見頂いている。	
			(外部評価) 毎月、小規模多機能事業所と合同で手書きの「シーサイド新聞」を発行されている。新聞では、来月の行事予定をお知らせしたり、行事の様子等を写真入りで報告されている。又、新聞の角には、担当の職員がご本人の様子を書き込むスペースがあり、ご本人の日々の様子を伝えておられる。年2回、夏祭りとクリスマス会に合わせて「家族会」を行っておられ、食事を利用者とともに楽しんでいただきながら、ご希望をお聞きしたり、運営推進会議で話し合った内容等を報告されている。ご家族の訪問時には、必ず「何かお気づきの点はないですか」と職員が声をかけるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的ミーティング、また、日々の会話も積極的に行い日々気付いたこと、検討し実践している。日々、気付いた事をすぐに話合う事で率直な意見を引き出している。申し送り時にも日々気付いた事を話合う。	
			(外部評価) ミーティングは、月1回行われており、外部講師を招き研修する時間も設けておられ「介護技術」や「認知症について」等、勉強を重ね、職員の身に付くよう取り組まれている。調査訪問時、昼食の時間、目が見えにくくなった利用者が食事をし難そうな様子を見て「色付きの食器にしてみてもどうか」と他の職員に話しているような場面も見られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員と話し意見を聴く機会を設けている。外部研修の案内も伝達し、興味のある講義を受講し他の職員に研修内容を講義する。利用者個々の担当を決め月行事を分担し、皆に協力を呼びかけ実施している。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティング時に内部研修行い講義や実技の研修を行っている。外部研修は申し送りやミーティングの時に他の職員にも伝達している。現場研修でも個別に指導しお互い成長しあえるよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内の事業所間での合同ミーティングを行っている。また、毎月関係施設合同の会議の開催時は困難事例について話し合いを行っている。研修の機会を通じてネットワークを作り、夏祭り催し時には法人内の事業所間同士の職員で協力し合っている。	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所の際、利用者本人だけでなく家族も交え面接により情報収集し、本人、家族の希望や不安についてどうすればいいか考えている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、利用者、家族交えて話し合い情報収集し、利用者、家族からの意向を入居時までに職員間で話し合い共有しよりよい介護出来るように本人、家族の意見を大切にしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、家族交えて意見伺い、随時状態に応じたサービスを行えるよう、日々、観察行いより良いサービス行えるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活において介護するされる側の場面でも声掛け、会話も交え気持ちを理解し、共有するよう努めている。日々の生活で料理を作る時や昔ながらの行事などは利用者に教えて頂きながら、一緒に行い共に生活をしている対等な関係を築けるように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に園内の新聞を送る際にも日常生活の状況を報告している。また、随時連絡とり、本人、家族の意見尊重し利用者にとって一番良い介護を行って行けよう検討している。夏祭り、クリスマスなどの行事を家族と一緒にいき、家族と利用者スタッフとの関係をより良いものにしようと努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の希望により外出レク(買い物レク等)施設近くの散歩、定期的な札所掃除を通じ顔見知りの人とのふれあいできるよう支援している。また、絵手紙を送ったり、電話で話合ったり人との関係が途切れない様努めている。	
			(外部評価) 開設当時より行われている島四国の縁日の「お接待」を通して、巡礼者の方と利用者が顔なじみになっておられ、年に1度、再会できることを楽しみにされている。「お接待」では、法人でぜんざいを振舞われており、利用者は、ぜんざいに入れる白玉団子を職員と一緒に作っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとり孤立しないように職員が入居者間に入り声掛け、話をし、話題を見つけ話をしやすいように支援している。また、レク、利用者と一緒に散歩をしたり楽しく生活できるよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などによる退所の場合、お見舞いに行くなどして利用者、家族との交流があり相談にのらせて頂いている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の利用者との会話をし、本人の意向を探り申し送り、カンファレンス、ミーティングで話し合い再検討し、よりよいケアを目指している。言葉に表現できにくい本人の想いにも気付く様、様子をみて努力している。また、家族面会や電話連絡時にも利用者の新たな情報収集している。	
			(外部評価) 入居時に、センター方式を用いてご本人のこれまでのことや現在の様子について情報を集めるようにされているが、認知症の症状が進行してから入居に至る方が多く、ご本人とのお話の中から情報を得ることが難しいようである。施設長は、「職員が利用者の思いを感じとり、感じとった思いを他の職員にも伝えられるようになってほしい」と話しておられた。	さらに、ご本人主体の支援を実践していくためにも、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を探り、情報を蓄積して、職員間で情報を共有していかれてほしい。さらに、利用者個々の「できること」「できそうなこと」についてもアセスメントに取り組み、「元気」「笑顔」につながるような生活支援を実践につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時には、本人、家族から面接時情報収集行っている。また、入所してから日常生活での会話や家族面会、電話連絡などで新たな情報収集に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は定期的なバイタル測定だけでなく日々の本人の様子見て健康状態みている。申し送りでスタッフ全員日々の様子の変化把握している。健康状態だけでなく日々の過ごし方把握し、職員が利用者の間に入ったり、利用者とは話をすることで心理低状態も把握することにも努めている。また、楽しく過ごすにはどうすべきか生きがいを見つける事も模索している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者と家族の意向を尊重しつつ、日々の生活の様子を見て、現在の状態を考えスタッフ間で日々の申し送り、ミーティングで話合う。必要と思われる介護サービスを計画し実施している。</p> <p>(外部評価) 3ヶ月に1度モニタリングを行い、基本的に6ヶ月毎に計画の見直しをされている。ご家族の訪問時や電話でケアや生活について希望をお聞きしている。「好きなことをして過ごしてもらいたい」等のご家族の希望や、ご本人からは「草引きや畑仕事がしたい。楽しく生活していきたい」等の希望が出されており、計画に反映させて、職員は、札所や事業所の畑の草引き・収穫等を楽しみながら行えるような支援に努めておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の状態をその都度記録に残し本人の訴えや様子を見てスタッフ間で話しケアについて考え直し、ケアも行っていくように努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の希望に応じ外出、外泊行い自宅などで過ごして頂く。帰宅時の様子や注意すること連絡を取り合う。帰宅時に問題があった場合などにはすぐに連絡取れる体制がある。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 定期的な民生委員の訪問、ボランティア(砂絵、習字等)の受け入れ、地域の老人会の参加、中学生職場体験、ヘルパー実習受け入れ、消防訓練による地域消防署との連携といった積極的な地域との関わりを持てるようにしている。また、移動販売のパン屋さんがきてパンを購入したり買い物レクで地元で買い物に出かけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を 築きながら、適切な医療を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			最低でもひと月に一度は職員が同行し協力病院に定期健 診している。医師、看護師からの意見など、受診の様子を家 族にも伝えている。利用者の希望により他の病院の受診も 行えるよう支援している。	
			(外部評価)	
			協力医を受診する際は、職員が同行され、協力医以外を受 診の際は、基本のご家族に付き添いをお願いされてい る。併設デイサービスに、毎日、理学療法士が来られてお り、利用者も必要に応じて、リハビリが受けられるようにな っている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			看護職員を配置し報告受け利用者の状態変化に応じられ るようにしている。また、他の職員も日常生活の中で利用者 に変化があれば早急に報告し、協力病院へ受診している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。または、そうした場合に備えて病院関係者との 関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			協力病院と連携を取りまた、他の病院に入院した際にも連 絡を取り合う事で、利用者が安心して治療できる様に努めて いる。連絡を取り情報交換する事で退院した際も利用者が 安心して生活できる様に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事 業所ですることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチームで支援に 取り組んでいる	(自己評価)	
			かかりつけ医との連絡を取り合い気軽に相談できる関係づく りをしている。ターミナルなどが考えられる場合は家族にも 意向確認する。また、職員の意識確認をし話し合い、ミー ティングで話し合い統一したケアを行えるように努める。	
			(外部評価)	
			事業所では、協力医と連携をとりながら、ご本人が重度化し た場合でも、できる限りホームで過ごしていただけるよう支援 されている。医療が必要になった場合は、協力医が受け入 れてくれるようになっており、ご家族は「何かあったら病院 へ」と希望する方がほとんどのようである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時の対応どうすればよいかマニュアル作成しており、またすぐに医療と連携がとれる体制をとっている。日々、職員同士確認している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練や火災訓練を行い、職員は災害にどう対応すべきかみにつけている定期的な訓練の時だけでなく地域消防署と連携取り協力たいせいにある。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施されている。3月に予定されている訓練では、地域の消防団に協力をいただくよう計画されている。職員は、「夜間は、法人内施設の夜勤職員や施設内に法人副理事長である施設長がおられ、すぐに連絡できる体制であり心強い」と話しておられた。	さらに、高齢化率の高い、事業所が所在する地域の実情を踏まえ、いろいろな災害を想定して地域の方達とも、ともに避難訓練を重ねていかれてはどうだろうか。相互協力体制の整備等にも取り組まれてはどうだろうか。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳、プライバシーを損ねる事がない様日常での会話でも言葉使いに気をつけ職員間でも話あう。個人情報の取り扱いにも気を付け記録をするときにも注意する。 (外部評価) 職員が利用者に対して「～ちゃん」と呼び掛けている場面や「アーン」と言いながら利用者の口に食事を運ぶ場面等も見受けられた。転倒の危険性があり、ヘッドギアを装着されている方が複数おられ、施設長は「食事中でも急に行動を始めるため、もしもの時のためにご家族の了解を得て装着している」「職員が1対1で付き添える時や車椅子に乗っている時には外している」と話しておられた。	利用者への対応や言葉かけについて点検されたり、又、ヘッドギアの着用等についても利用者ご本人の立場に立って考える等、この機会を「利用者の尊厳を守る」という観点から日々のケアについて話し合う機会にされてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者とのケアする際には話しながら思いを引き出す様努めている。また、言葉に表現できない利用者には仕草や、表情や様子を見て理解する様努めている。利用者が出来た事は手伝って頂いたりスタッフに教えたり協力して生活して頂けるようにしている。利用者とは話し合い何をしたい！何が出来るかを日々、考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、入浴時間等、可能な限り本人の要望を聞く。入浴日 もその日の体調に合わせてたり本人の要望をその都度聞き支 援している。夜間も決まった消灯時間に休められない利用者 にも他の利用者に配慮した上で居室やフロアで過ごして頂 く。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 入浴や起床時、服は出来るだけ本人に選んで頂けるよ うに配慮している。必要に応じ更衣、着脱、整髪、モーニングケ アの援助をする。また、理容、美容施設で散髪する際選択 できる様にしている。行きつけの理美容室に行ける様支援も している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の利用者にあった食事形態を工夫し、職員と出来る範 囲で準備、片付け、手伝って頂いている。また、職員が一緒 に食事を取ることで日々の食事の事を利用者と話し合い世 間話等、会話、意見を引き出させている。日々、食事につい ては検討しているが家族会でも食事をして頂きながら意見 を頂いている。	
			(外部評価) 食事は、法人の厨房から「おかず」が届くようになってい る。ご飯と汁物は、各ユニットで作っておられる。月に1度「お刺 身の日」があり、訪問調査当日は、板前さんが厨房で地元 で釣れた新鮮な魚を調理してくださったようだ。お刺身が苦 手な方は、煮魚にされていた。事業所の畑で採れた大根で 作った漬物が添えられてあった。厨房でおかずを作るため、 利用者の食べたいものが献立に反映できにくいこともあり、 おやつは、週に1回、利用者の希望を聞いて手作りにされ ている。利用者からは、どら焼きやプリン、焼きそばやたこ焼 きの希望が多いようだ。回転ずし等の外食に出かけることも ある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事毎に摂取量、水分量その都度記入し詳細もカルテ記 入している。また、利用者個々に応じ摂取量が少ない時は 好きな物食べて頂いたり、飲み物の種類かえたり水分の多 い果物をとって頂いている。月に一度体重測定を行い増減 注意している。日々の様子も注意している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口 腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛け行い口腔ケア行っている。個人で歯ブラシ、 歯磨き粉用意している。必要に応じ見守り介助行っている。 自分で行えなかったり、うがいの出来ない利用者は職員が ガーゼで拭くなどしている。口腔状態の観察行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を使い、利用者個々の排泄パターンを掴み出来るだけトイレでの排泄を心がけている。訴えの出来ない方にも行動や様子を見て定期的に声かけし、誘導を行っている。チェック表の活用によりスタッフ全員が把握し注意できるようにしている。トイレも大きな張り紙で利用者にわかりやすい様表示している。</p> <p>(外部評価) 夜間は紙おむつの方も、昼間はリハビリパンツにされ、トイレで排泄することを支援されている。車椅子を使用する方が多く、使用されるトイレには「トイレ」の表示を低い位置に示しておられた。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 食事以外にも水分補給こまめに行っている。レクや散歩などで運動を行う事により便秘予防に努めている。食事やおやつにも工夫しており毎食事、汁物をつける事によって水分を多く摂っていただく様努めている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者のその日の状態を見ながら、本人に確認を取り希望時に入浴できるようにしている。入浴剤を入れ気分転換も図っている。入浴時にも会話をするなどして関わりを大切にしている。</p> <p>(外部評価) 浴室のガラス窓は、すりガラスのようになっており、自然の光が入っていた。利用者は、入浴を好まれる方が多く、毎日入浴される方もおられる。時間についても、午前、午後等、希望に応じて入浴できるよう支援されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の生活歴や様々な要因にも気を配っている。日中散歩で気分転換を図り、日光浴をしたり、レクで活動量を増やし出来るだけ夜間眠れるよう努めている。夜間は眠れない利用者には話をしたり飲み物とって頂いたりして気持ちを落ち着かせて眠れるよう支援する。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医薬情報をカルテに挟みスタッフがいつでも調べる事が出来るようにしている。必要に応じ詳しく内服について学び職員同士情報交換している。薬の変更があれば申し送りなどで把握している。症状変があれば協力病院に連絡し指示をもらっている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活においては、食器、お盆拭き洗濯物干しや洗濯物畳みなど利用者が出来る事手伝っていただき、出来る範囲の事で役割を持っていただけるように関わっている。札所掃除や昔ながらの行事(もちつき)などにもできる事手伝って頂いている。新聞を読むのが日課の人には個別で購入している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の日々の体調を見ながら散歩、外出行っている。札所掃除や外出レク等で地域の方と交流行っている。家族の希望により、家族の外出、外泊行う時もある。外食レクなどといった。外出に出かける行事に家族も一緒に参加してもらっている。 (外部評価) お天気のよい日は、事業所の周辺を散歩されている。事業所近くの道の駅「ようみいきいき館」や島内にある洋品店に買い物に行かれることもある。時には橋を渡って、大型スーパーで買い物をされたり、四国八十八箇所の第五十五番札所である「南光坊」をお参りされることもある。3月には「網敷天満神社」へ、梅を見に出かける計画をされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の状態、希望に応じ本人で現金を持っていることもあるが、大部分の人は事務所で預かり、散歩、又買い物レク等で必要に応じ、本人がお金を持ち支払できるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は希望があれば出来るようにしている。定期的にレクで作った絵はがきで手紙を書いたり、暑中見舞い、年賀状なども出している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 換気システム導入しているが窓を開けて定期的に換気も行っている。移植などに注意しながらも、季節の花や物飾り、季節感を感じたり落ち着いて頂く雰囲気作りをこころがけている。テレビの音量や照明の明るさにも気をつけるようにしている。	
			(外部評価) 窓からは、山や海、港が一望できる。客船の出入りで、時計代わりに時間を感じられる方もおられるようだ。窓際に、畳の一角があり、足を伸ばして休む方もいる。移動時には車椅子を使用する方も、居間では椅子に座り、足が床に着かない方には、足台を置くようにされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアのテーブル、椅子だけでなく、窓側にソファを設け外を眺めたり、少人数で会話できるよう配慮している。テーブルも2つに分けていたりレクをするときは机をつけて皆で楽しめるようにその都度配置を考えている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好きな物や入所前使用していた物もってきていただいたり、レクで作った作品飾ったりなど落ち着いて生活できるようにしている。ベットだけでなく希望があれば畳で布団ひいたり本人が安心して快適に生活できるように工夫している。	
			(外部評価) ぬいぐるみを好まれる方の居室には、ご家族が持って来られたぬいぐるみが並べて飾られてあった。レクレーションの時間に、ご自分で書いた習字の作品や砂絵・ステンドグラスの作品を飾っている方も見られた。各居室には洗濯物を干す備品が置かれてあり、天気の良い日には、利用されているようである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室と言った共用部分はわかりやすい様大きな文字で飾り、見えやすい高さに表示している。また、床、居室、トイレには段差のない作りになっている。通り道には物など置かないように常に配慮している。	
			(外部評価)	